市民談話室

原稿を募集中

「市民談話室」は、市民の皆さんの意見交換の場です。テーマは自由。あなたの周りの最近の出来事、ふだん思っていること、市に対する意見など、堅く考えず気軽に投稿してください。紙面の都合上、文を短くすることがあります。あて先は〒950-12 白根市大字白根1235 白根市役所企画調整課広報広聴係です。

空き缶は家に持ち帰ろう

環境浄化に思いをよせて
空き缶投げ捨てに胸が痛む

泉　博さん（万年・農業・75歳）

さわやかな五月の風にさそわれて、堤防などを車で走ると、暖かい日曜日などは散歩する親子連れや、野草を摘む人々をよく見かけます。その姿に心を和ませておりますと、何気なく見る路端にやたら目に入るのが、ジュース、ドリンクの空き缶です。これはいったいどうしたことでしょう。今や社会をあげて地域の環境浄化が実施され、この対策にあらゆる団体が取り組んでいます。それがいったいどうしたことでしょう。一般社会に理解されていないのが残念でなりません。捨てるから拾う、拾うから捨てる。これではいたちごっこで、いつまでたっても環境浄化にはなりません。散乱する空き缶は、不特定多数の人々の横柄な不心得心がそうさせるのでしょうか。捨てずに家に持ち帰るなり、一定の捨て場所に置けば、環境浄化になり、社会の迷惑にもならないのです。

もう十年くらい前になりましょうか。韓国へ旅行したときの思い出ですが、韓国ではいたる所に吸い殻入れが設置されていて、吸い殻一つ散乱していませんでした。また、新聞を売り歩く少年が、街角に落ちていた紙片を拾って帰る姿は、日本には見られない光景でした。日本人意識で自尊心を持っていた私も、これには深く反省させられました。

国内ばかりに閉じこもらずに、外国へ旅するのも一つの社会勉強になります。どんな名言を聞かされても、どんなに立派な施設が作られても、実行に移さなければ画餅に等しいと思います。要するに、環境の浄化はモラルの問題で、我々一人一人の自覚に待つよりほかないと思います。今日も信濃川堤防を走りましたが、拾った空き缶が、ビニール袋に詰められて数限りなく並んでいました。こうした作業に働かれた人達の労作を思うとき、胸の痛むのは私一人ではないと思います。

本市にもっと多くの会社を
子供の成長に願う

水沢ハナ子さん（下八枚・工員・38歳）

つい先日、とてもうれしいことにプロポーズされてしまいました。とは言っても相手は、きかない盛りの二男と三男。夕方、会社から帰り、子どもたちに囲まれて、耳が痛くなるような部屋で過ごすひととき、とても幸せを感じます。

子どもたちのわんぱくぶりに目を細めながらも願うことは、この子たちがやがて社会人となった時、少しでも親の近くにいてほしいということ。そのためには、彼らがいろいろな可能性に挑戦できるように、できるだけ多くのりっぱな会社を白根市に誘致していただきたいのです。都会にばかり目を向けるのではなく、身近なこの土地で、自分の将来を託す仕事に巡り合えるよう、願わずにはいられません。

彼らが将来、壁に直面した時、力となり相談相手となれるよう、私も勉強したいと思います。

市民文芸

俳句

しなやかに水面に香る藤花かな　渡辺　勧

短歌

花冷えの嵐は夜半にしずまりて
陽に輝ける残雪の峯　中村　京

水無月や白根の土堤に風仰ぐ
男の息に大凧合戦　長谷川久二

何の足しにすべくもあらねど宝ぬちに
落ちゐる輪ゴム今また拾ふ　泉　博

川柳

もう痺れ知らぬ野積の即身仏　中村　尚治

春ショール弾んでかるく流行語　西条　ムラ

完結は子供が決める紙芝居　早川　英男

ザエンドになるとカラスが去って行く　山岡　フミ

最近思うこと
たばこのことなど

田部一男さん（上鷲ノ木・農業・43歳）

二十代、三十代は自分自身の健康管理のことなどまるで考えずに、成り行きまかせで暴飲暴食をしてきましたが、ここ一、二年は、一日の仕事を終えて家に入ると「ああ、疲れた」という言葉が出るようになりました。まだ、まだ、そんなことを言う年ではないと、自分に言い聞かせながら仕事をしているこのごろです。

近ごろ、子どもたちが私の健康を気遣ってくれるのでしょうか、「お父さん、たばこ、やめれテ」と毎日叱られています。私も実は、二年くらい前に、一年間ほどたばこを休んだときがあるんです。ところが、半年もしたら体重が増えて太ってしまい、動くのもせつなくなってきました。結局、また吸いはじめましたが、子どもたちに毎日見られていると、何だか悪いことをしているような気になります。

たばこが人間にとって本当に害があるなら、なぜ、農家が使っている農薬のように販売中止や製造中止にならないのか、とさえ思いたくなります。子どもたちが「いたずら」をしてたばこを隠したりしても、それでもやめられない意志の弱さ（意志が金く無い）にあきれています。

いつもにこにこ顔で
話しかけてくださるお地蔵様

半間伊作さん（古川団地・無職・76歳）

私たちの団地（古川団地）の入り口に、お地蔵様がおられる。目をつむって、にこにこ顔である。このお地蔵様の由来は分からないが、いつも私たちを見守ってくださる顔である。

仏教の経典によれば、釈迦入滅後五十六億七千万年後に、釈迦と同じように人間の悩みを救ってくださる仏が出現する。それが弥勒菩薩である。少なくとも百八つの悩みがある人間にとっては、そんなに長い間釈迦も弥勒菩薩もいない、救い主のない世の中では困り果てたものである。そこで地蔵菩薩が現われるのである。

お地蔵様が大きな寺の中に納まっていないで、小さな祠の中か、道端にたたずんでいるのは、いつでも誰でも話しかけてもいいという配慮からである。目をつむっているのは、人の悩みを聞いている顔なのである。また、死んだ人の悩みも聞いてくださる。子どもが死ぬと、使っていたよだれかけをお地蔵様に掛けて「あの子に代わって地獄の苦しみに耐えてください」とお願いするのである。

仏教の基本は知恵と慈悲である。日々の暮らしを、仏の恵みに感謝しながら、生きようではないか。

他人様の暮らしに触れたがる雀　吉川　彰

日本の美知らずに海外旅行する　米野　光雄

厨房で見せる男の腕のオ　今井　七郎

入社式コネで入った顔もいる　織田　セツ

脱税の内幕帳簿が喋り出す　後藤マサノ

すぐ飽きる男リタイヤくり返す　佐藤トミノ

初物が舌に馴染まぬ異国産　佐藤　ヨキ

曲がり角逆え出る火種妻と吹く　高橋祐四雄

とつおいつ頼ってみよか蝮酒　竹石　甚五

短足の坐禅ひけ目は感じない　田中　成子

大仏の坐禅千年でも続く　田村　恒夫

グループ紹介㉒

サンシャイン根岸（ゲートボール）

おもしろくてやめられない

根岸老人クラブのゲートボール部（会員16人）です。部の設立が昭和55年ですから、ゲートボール部としては市内で早い方です。

当時、三市中蒲原郡の大会（新津市）に初めて参加しましたが、未熟なため負けてしまいました。

今は、月・水・金・日曜日の週4回、毎日午後から、国道8号沿いのコートで練習をしています。

年8回ある市内大会にはほとんど出場しますが、昨年、創設以来のベテラン4人が退部されたことで、チームの引き締めにかかっています。

ゲートボールは、5人で1チームの団体競技で、ルールを覚えるのに1年くらいかかりますが「マスターすれば、おもしろくてやめられない」と上杉　保部長（根岸・67歳）は話します。

根岸地区全体では、年1回70歳以上の高齢者大会を開き、80歳以上の人を表彰して激励しています。

根岸部落の人なら、老人クラブの会員でなくても入部できますので、加入希望者は上杉部長(☎373-5057)へ連絡してください。

会員の声

古田間佐男さん（根岸・69歳）

発足当時から入会し、老後の楽しみとしてやっています。やればやるほどおもしろくなってきます。相手のボールにタッチしたときは気分そう快です。屋外で伸び伸びできるし、仲間づくりにも役立っています。これからも続けていきますが、皆さんも始めてみませんか。健康づくりに最適ですよ。